

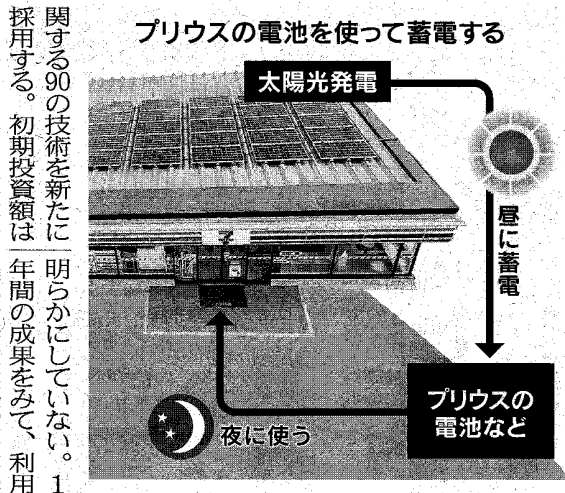
セブンは5月下旬、再生可能エネルギーで電力使用量の5割をまかなう新型店を開く。路面に太陽光パネルを埋め込み、ハイブリッド車(HV)の中古電池を蓄電池にするなどして現在の1割から高める。店舗の電力代も半減できる見込み。再生可能エネルギーを5割使う試みはコンビニ大手で初めて。

セブンは新型店を相模原市に開く。運営コストと二酸化炭素(CO₂)の排出量をともに大きく削減するため、環境などに

セブン新型店 再生エネ5割

太陽光発電3倍

HV電池で蓄電



できる技術を広げている。セブンは全国で2万を越す店舗のうち、約8000店に太陽光パネルを設け、各店舗の使用電力の約7%を再生エネでまかなう。新型店は太陽光パネルの設置面積を従来3倍に増やす。屋根の敷設を広げるほか、フラッシュ建設大手アイグレルの技術を使い、駐車場のうち車の止まらないスペースなどに太陽光パネルを埋める。生みだした電気は昼間に蓄え、夜に使うことで電力会社からの購入を減

らす。トヨタ自動車のHV「プリウス」20台分の中古電池や東芝の大型蓄電池を活用する。セブンは16年度の1店舗あたりのCO₂排出量が74%となる。14年度に比べ15%削減していたが、店数が増え全体は2%減にとどまった。新技術により、店数が増えてもCO₂は減らすことができる仕組みを目指す。環境・社会・企業統治の観点から投資対象を選ぶESG投資の流れが強まっていることもあり、コンビニ各社の環境対策は今後進みそうだ。